

特209

98

昭和四年度

業務功程報告書

福井縣立種畜場

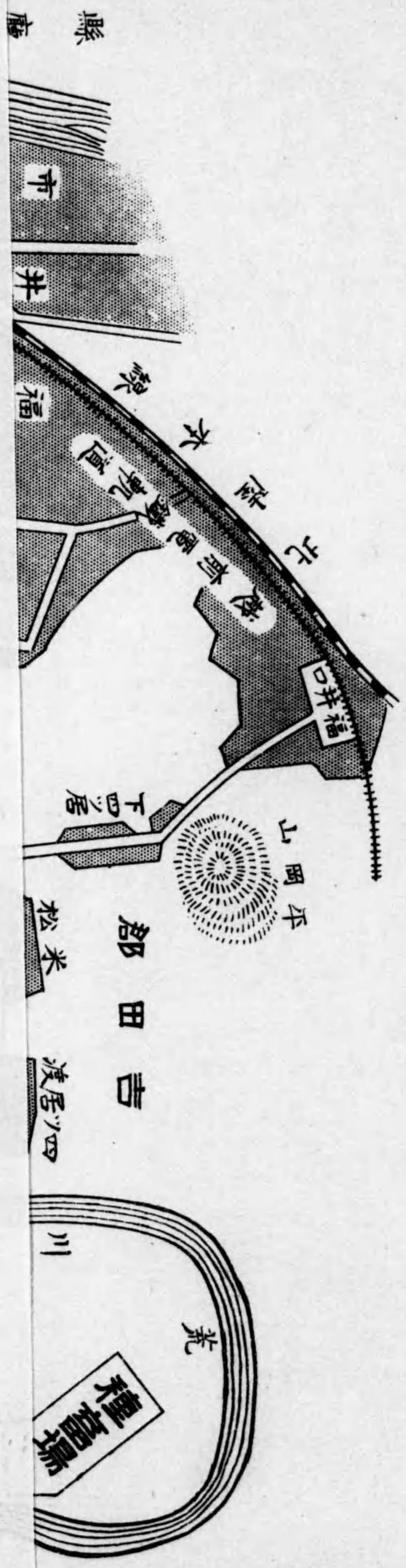


始



特209
98

種畜場在坂路圖



誤表

九頁	正行	昭和四年三月
三二	一三	四年三月
一三	二二	四年三月
一七	一九	四年三月
一七	二二	四年三月
一八	七	四年三月

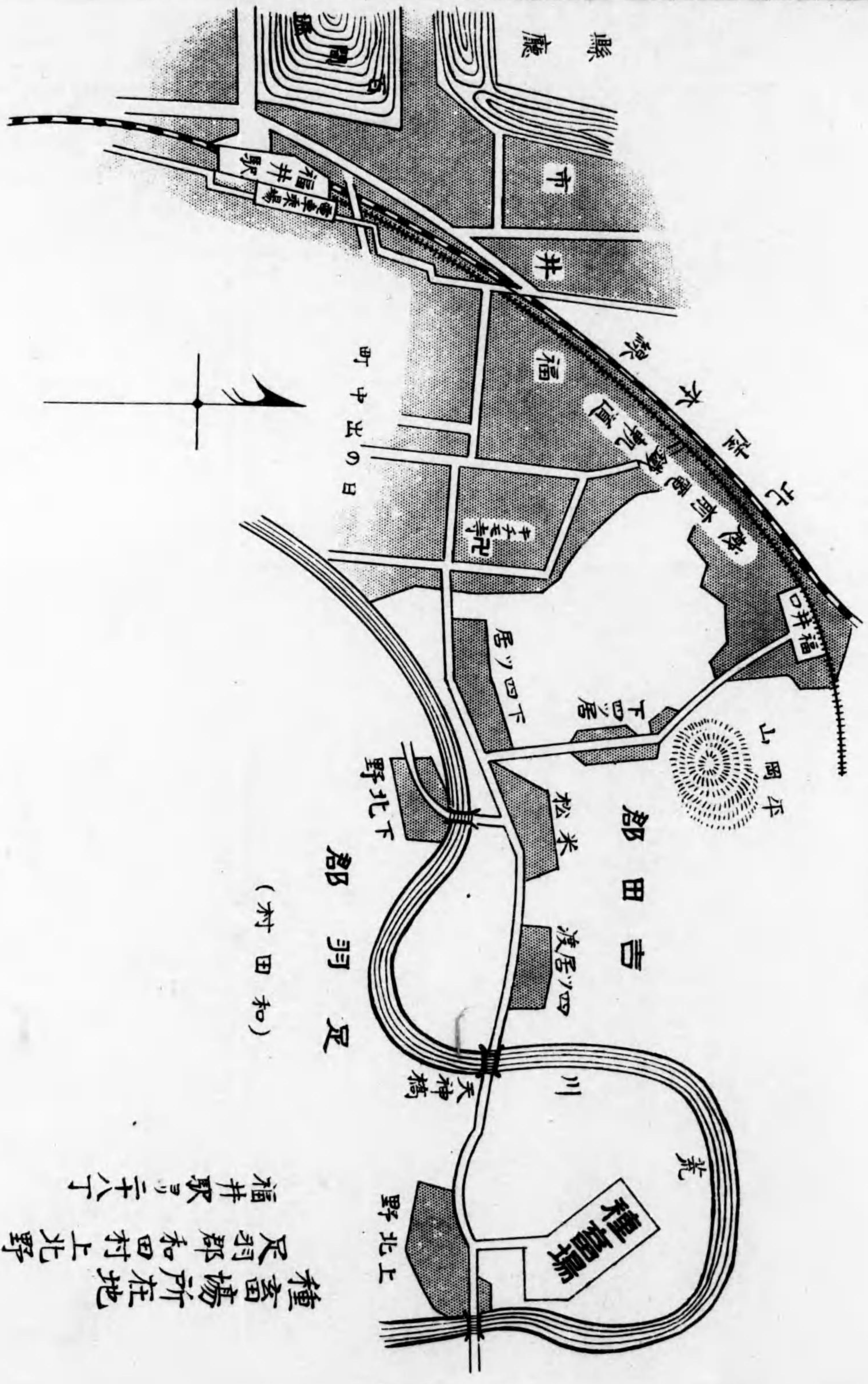
誤表

昭和四年三月	昭和四年三月
十月十八日	十月十八日
十月廿二日	十月廿二日
十一月廿日	十一月廿日

正

四年三月	四年三月
十二月十八日	十二月十八日
昭和四年三月	昭和四年三月
四月十八日	四月十八日
十一月廿日	十一月廿日

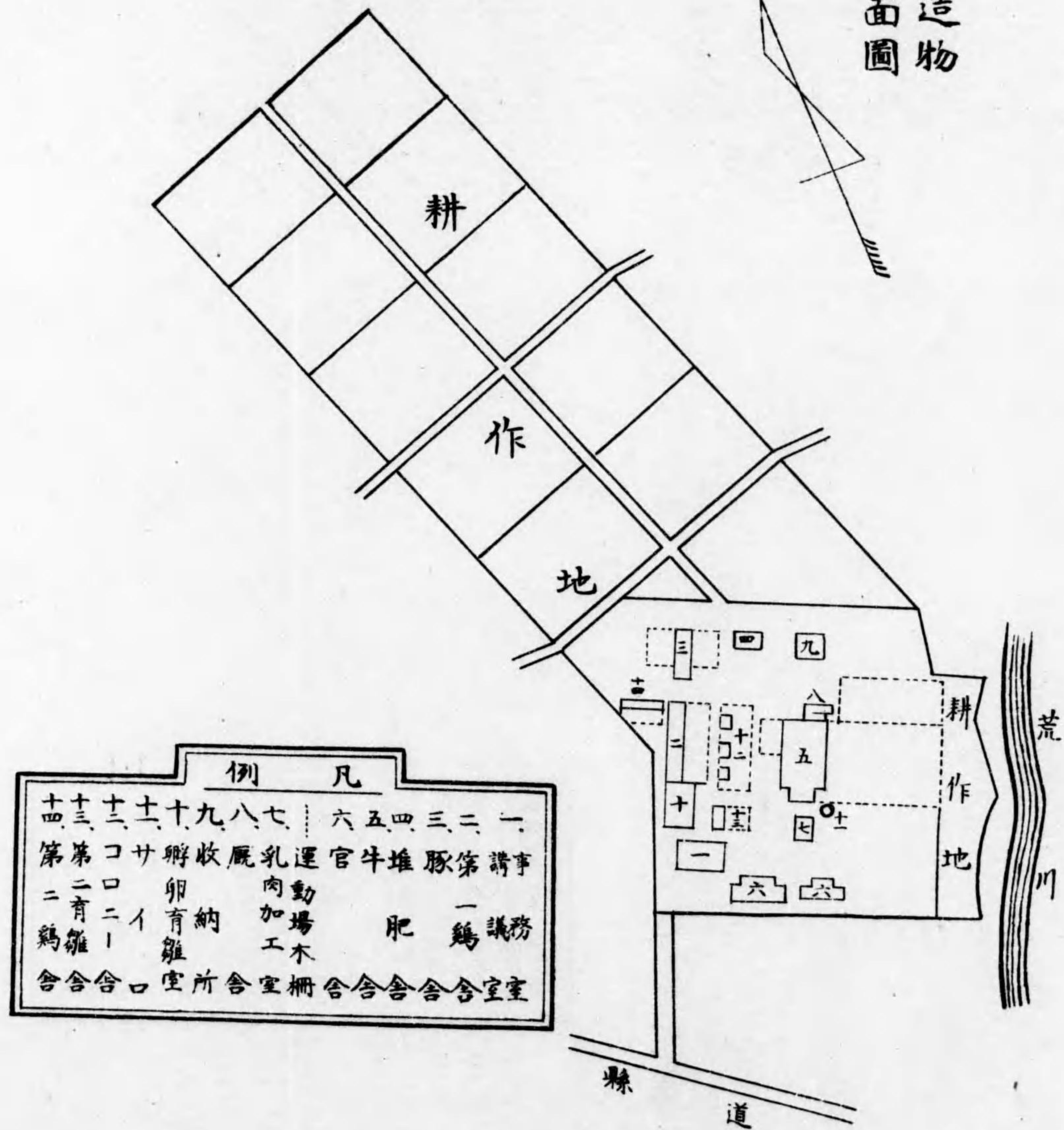
種畜場在胚場略圖



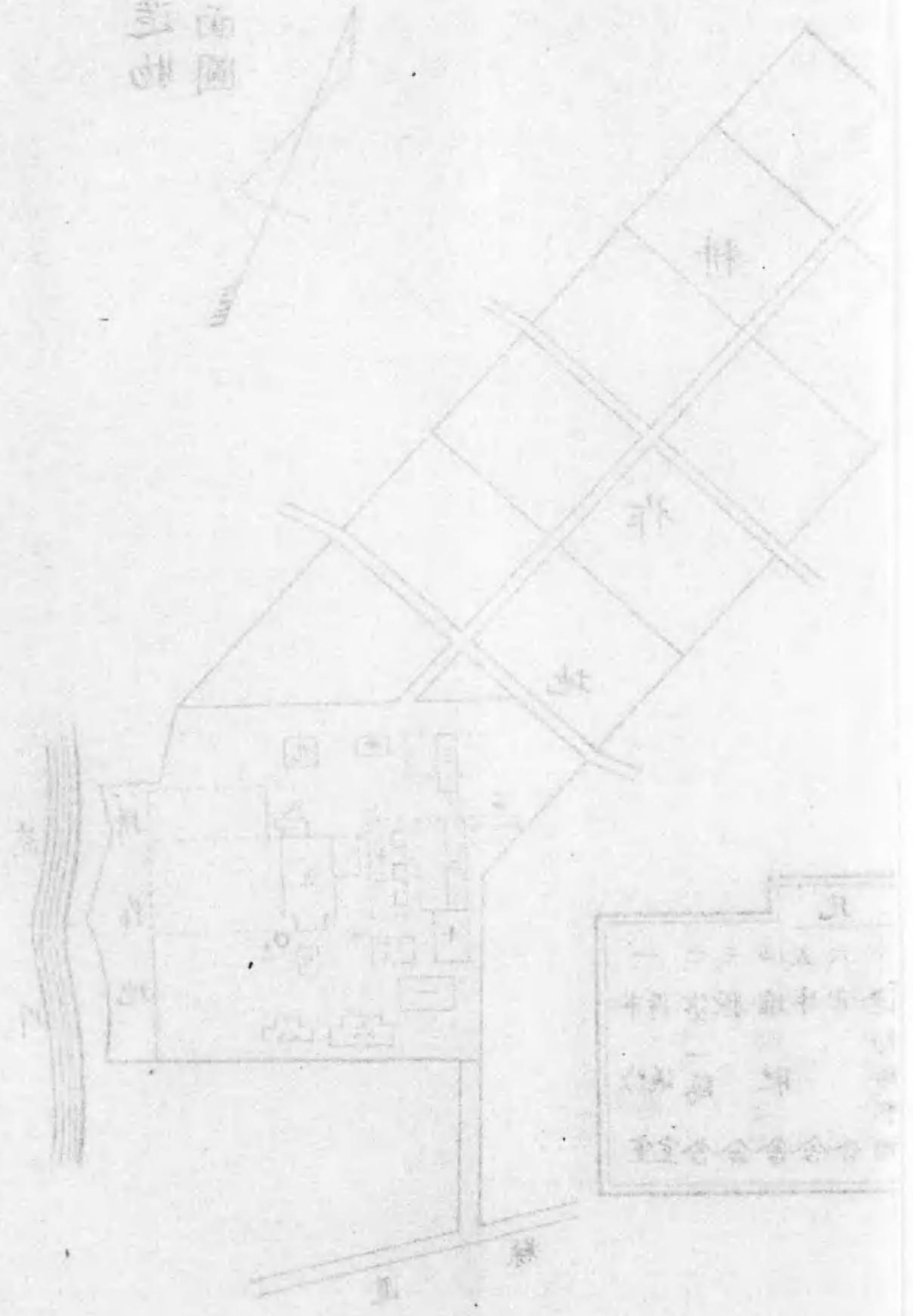
種畜場所在地
 足羽郡和田村上北野
 福井駅ヨリ二十

(村田和)

種畜場營造物
及耕作地平面圖



昭和四年福井縣立種畜場業務功程報告書目次



昭和四年度福井縣立種畜場業務功程報告書目次

第一章 總說	一	第二章 種畜種禽	二
一、沿革	一	一、畜牛	二
二、位置	二	イ、畜牛現在表	二
三、用地	二	ロ、畜牛異動表	三
四、氣象	二	ハ、種牡牛種付成績及分娩表	三
五、經營	三	ニ、種牡牛餘勢種付成績表	四
六、經費	四	一、豚	四
七、事業ノ概況	七	イ、豚現在表	四
八、事務ノ概況	八	一、種牡豚	四
イ、職員	八	二、候補種豚	五
ロ、職員及傭人ノ異動	八	三、種牝豚	五
ハ、職員出張	九	四、仔豚	五
ニ、職員出張	九	イ、種豚異動表	六
(イ)縣内	九	ロ、種豚種付成績表	六
(ロ)縣外	九	ハ、年度内生産仔豚異動表	八
ホ、參觀人員	一〇	ホ、種豚拂下表	九
ヘ、質疑應答	一一	ニ、最近五ヶ年間種豚拂下比較表	一〇
ト、文書發受件數	一一	三、鶏	一一



イ、種鶏現在表	三二
ロ、種鶏拂下表	三三
ハ、最近五ヶ年間種鶏拂下比較表	三三
ニ、種卵拂下表	三三
ホ、最近五ヶ年間種卵拂下比較表	三四
ヘ、種鶏種卵拂下出願數ト拂下數ノ對照	三五
ト、人工孵化成績表ノ一	三五
チ、同 表ノ二	三六
リ、産卵調査表	三七
ヌ、最近四ヶ年間産卵成績比較表	三八
ル、産卵能力檢定結了鶏ノ成績概要	三九
ヲ、年齢ト産卵トノ關係調査	三〇
ワ、育雛成績ノ概要	三〇
第三章 飼養管理	三〇
一、飼 養	三〇
イ、畜牛飼料配合例	三一
ロ、犢人工哺乳	三一
ハ、種豚飼料配合例	三一
ニ、種鶏飼料配合例	三一
ホ、育雛飼料配合例	三三

一、飼料ノ購買及消費	三三
二、管 理	三三
第四章 乳肉加工	三六
一、乳 加工	三六
二、肉 加工	三七
第五章 試驗成績	三六
一、鶏卵貯藏試驗成績	三六
第六章 耕 作	四〇
一、農場經營ノ概況	四一
二、飼料作物栽培ノ概況	四一
イ、飼料作物栽培成績表	四一
ロ、牧草收穫表	四二
ハ、農場作業使用人員及賃金月別表	四二
ニ、飼料作物栽培勞力調査表	四三
(1) 青刈大豆	四三
(2) 青刈用燕麥	四四
(3) 理莠用玉蜀黍	四五
(4) 馬 鈴 薯	四六
(5) 蕪 菁	四七
*、飼料作物耕作反當所要人員表	四八

第七章 指導獎勵……………四九
 一、質疑應答及講習講話……………四九

附 錄

福井縣立種畜場職制	五一
福井縣立種畜場處務規程	五一
福井縣立種畜場處務細則	五二
種豚種禽種卵拂下規程	五七
種牡牛種付規程	五九
候補種牡牛拂下規程	六一
傭員心得	六四
種牡牛表	六六

昭和四年度福井縣立種畜場業務功程報告書

第一章 總說

一、沿革

本縣畜産ノ起原ハ文献ニ徴スヘキモノナク其由來ヲ知ル能ハスト雖氣候中和ニシテ地味豊饒加之山河ノ配置宜シキヲ得テ芻草ノ繁茂夥シキカ故ニ昔日ヨリ養畜ノ業行ハレタルヤヲ想起セシムルモノアリ明治ノ初年土産牛ノ体格矮小品位劣悪ナルヲ慨スル人士等ニヨリテ短角種及「ホルスタイン」種牝牛ノ購入ヲナシ銳意畜牛ノ改良ニ努メタリト雖一進一退成績ノ見ルヘキモノナクシテ徒ラニ悲境ヲ辿ルニ過キヤリキ明治三十三年以來縣費ヲ以テ「ホルスタイン」種牝牛ヲ購入シテ乳用種ノ改良ニ努ムルト共ニ一面ニハ又使役ヲ專ラトスル地方ニ對シテハ在來種牛ノ特質美点ヲ尊重シテ改良増殖ヲ圖レリ

爾來幾星霜回ヲ重ネテ實驗シ乳用種牛ニアリテハ「ホルスタイン」種ヲ以テ最モ氣候風土ニ適應シ役用牛ニアリテハ改良和種ヲ其ノ用途ニ充ツルヲ以テ最モ良策ナルモノトシ愈々方針ヲ改メテ邁進セリ

養鶏養豚ニアリテハ佛教ノ盛ナル關係上飼養尠ク他府縣ニ比シ著シキ遜色アリタルモ縣當局ハ之レカ飼養ノ獎勵ニ努メタル結果漸次其數ヲ増シ數倍ノ増加ヲ算スルニ至レリ既往ノ狀態ハ大略以上ノ如クナルモ時代ノ趨移ハ益乳肉卵ノ需要ヲ加ヘ併テ家畜家禽ヲ加味セル農業ハ農家經營ヲ合理化スル上ニ於テ最緊急ナル事業ナルヲ以テ之レカ範ヲ示シ實地指導ノ機關タラシムルト共ニ種畜種禽ノ配付ヲ普カラシメントシテ茲ニ當場ノ設立ヲ企圖スルニ至レリ

設立ニ要セシ經費豫算ハ之レヲ大正十一年度通常縣會ニ提出シタルニ最モ意義アル施設トシテ熱誠ナル協賛ヲ得即チ十一年度ヨリ三ヶ年繼續ヲ以テ新設スルコト、シ農商務省亦十一年三月二十四日附ヲ以テ設立ノ認

可ヲ與ヘラレタリ而シテ同年四月場長ノ任命ト共ニ仮事務所ヲ縣廳内ニ設ケ翌十二年十月事務所ノ竣功ト共ニ移轉今日ニ及ヘリ

二、位 置

縣廳及福井驛ヨリ東方約三十町ニ位シ道路ハ縣道ニシテ極メテ平坦且ツ荒川ト稱スル河川ハ本場ヲ圍繞シ福井市ノ中央ヲ貫通スル足羽川ニ通スル等能ク舟車ノ便ヲ有セリ土地高燥豐饒ニシテ從來主トシテ蔬菜ノ栽培ヲ行ヒタル畑地ト梨園ヲ開拓シテ設置セシモノニシテ水質良好飲料ニ適ス圓山ノ丘陵ハ指顧ノ間ニ展望シ遙カニ望メハ加賀白山ノ秀嶺雲煙ノ間ニ横タハリ望涯ノ風光雄大明眉ナルノ地ナリ

三、用 地

用地ハ總面積僅カニ三町五反八畝十六歩四合ナルヲ以テ事業ノ施行上常ニ集約的ナル利用方法ヲ研究シ其ノ範ヲ示セリ而シテ用地利用ノ區分ヲ示セハ左ノ如シ

- 建 物 敷 地 一千四百六十五坪四合
- 家畜家禽舍附屬運動場 八百六十六坪
- 牧 草 栽 培 地 一町二反三畝十四歩
- 通 路 及 耕 作 地 五百八十一坪
- 耕 作 地 一町四反歩

四、氣 象

夏季ハ風位概テ北風又ハ南風ニシテ攝氏二十八度ヨリ三十三、四度ノ間ヲ昇降ス冬季ハ風位概テ北西ニシテ氣温ハ攝氏二度ヨリ零下四度ノ間ニアリテ初霜ハ十一月初メヨリ晚霜ハ四月上旬ニ及ヒ降雪ハ十一月下旬ナルモ積雪ニ至ラスシテ多クハ十二月又ハ一月ニ入りテ尺餘ニ及フヲ普通トセシモ本年ハ近年稀ナル薄雪ナリキ

五、營 造 物

種 類	個 數	構 造	坪 數	建 築 セ シ 年 度
牛 舍	一	木造瓦葺平屋	八二、〇〇	大正十一年度
豚 舍	一	木造亞鉛葺平屋	三二、〇〇	同 十一年度
堆 肥 舍	一	木造亞鉛葺平屋	一〇、〇〇	同 十一年度
牛 運 動 柵 場	延長百十七間	丸太造リ高サ四尺五寸	五九、〇〇	同 十一年度
豚 運 動 柵 場	延長六十一間	板圍高サ四尺	六四、五〇	大正十一年度
井 戸	四	掘抜井戸	三一	大正十一年度ニケ 同十二年 度一ケ 同十三年度一ケ
講 務 議 所	一	木造瓦葺二階建	五、〇〇	大正十一年度
雞 舍	二	木造瓦葺平屋	五、七五	大正十二年度
右 運 動 場 所 木 柵 屬	延長百五間半	金 網 張	九七、五〇	大正十二年度
舍 宅	二棟四戶分	木造瓦葺平屋	六一、〇〇	大正十二年度 一棟
第一 育 卵 雛 舍	一	木造瓦葺平屋	二〇、〇〇	大正十三年度
右 運 動 場 附 木 柵 屬	延長十九間半	金 網 張	一三、五〇	大正十三年度

目	節	豫算額	決算額
收納所	一	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
厩舎	一	五、〇〇〇	五、〇〇〇
乳肉加工室	一	三、〇〇〇	三、〇〇〇
カイロ	一		
コロニー式鶏舎	三	九、〇〇〇	九、〇〇〇
右運動場附木柵	延長三十六間	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇
第二育雛舎	一	八、〇〇〇	八、〇〇〇
右運動場附木柵	延長十九間	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
牛種付料		二四、五〇〇	二四、五〇〇
吏員職員納付金			一、九〇〇
不用品賣拂代		一〇、〇〇〇	五、二〇〇
收穫物製作			五、四〇〇
品賣拂代		六、一五〇〇〇	四、三六七〇
計		六、四四、五〇〇	四、六五、〇七〇

六、經費 (歳入)

目	節	豫算額	決算額
還納金			〇、〇〇〇
計		六、四四、五〇〇	四、六五、〇七〇
俸給		五、六四、四〇〇	五、四〇、七五〇
技師給		一、七六、二〇〇	一、五八、二八〇
技師給		三、四一、六〇〇	三、三〇、九七〇
主事補給		五、一六、〇〇〇	五、一六、〇〇〇
雑給		五、七三、九〇〇	五、七〇、二〇〇
技師旅費		四、七九、〇〇〇	四、四三、三六〇
技師主事補旅費		一、〇一五、〇〇〇	一、〇一六、〇〇〇
牧夫給		二、一三三、〇〇〇	二、一三三、〇〇〇
農夫給		九、四九、〇〇〇	九、四九、〇〇〇
小使給		二、六八五、〇〇〇	二、三三八、〇〇〇

場費	雇人料	一、九五〇〇〇	一、九五〇〇〇
惠與	七、五六〇〇〇	七、五六〇〇〇	七、五六〇〇〇
備品費	八、一八三〇〇〇	八、一七三〇〇〇	八、一七三〇〇〇
消耗品費	八、八六〇〇〇	八、八六〇〇〇	八、八六〇〇〇
種豚購入費	八、九五〇〇〇	八、九五〇〇〇	八、九五〇〇〇
種卵購入費	五、〇〇〇〇	五、〇〇〇〇	五、〇〇〇〇
肥料費	九、〇〇〇〇	八、九二〇〇〇	八、九二〇〇〇
種苗費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
飼料費	二、五〇〇〇	二、五〇〇〇	二、五〇〇〇
飼料費	五、一七〇〇〇	五、一七〇〇〇	五、一七〇〇〇
宿直賄料	九、二五〇	九、二五〇	九、二五〇
通信運搬費	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
圖書印刷費	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇
借地料	七、九六五〇	七、九七二〇	七、九七二〇

牽付費	三〇、〇〇〇	二〇、八七〇
試驗費	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
雜費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
修繕費	三、五九〇〇〇	三、五九〇〇〇
牛舎床下張替及柵修繕	三〇、九〇〇〇	三〇、九〇〇〇
小破修繕	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
合計	二〇、〇九〇〇〇	一九、六四五一九〇

七、事業ノ概況

本年度ニ於テ行ヒタル事業ノ概況左ノ如シ

- 一、種牛ノ蕃殖育成
- 二、種牡牛ノ餘勢種付
- 三、種豚ノ蕃殖育成
- 四、種鶏孵化育雛
- 五、種畜、種鶏、種卵ノ拂下
- 六、乳肉ノ加工
- 七、飼料作物ノ栽培
- 八、畜産ニ關スル講習講話、實地指導並質疑應答

九、種鶏ノ産卵ニ關スル調査
一〇、鶏卵ノ貯藏試験

八、事務ノ概況
イ、職員

任命年月日	職名	氏名
昭和四年四月四日	場長 地方農林技師	坂井健一郎
大正十四年四月二十二日	農林技手	蔦谷壽亮
昭和三年四月一日	同	佐藤彌太郎
昭和二年五月二十五日	同	龍田泉
昭和四年三月三十一日	同	鈴木木誠
大正十二年四月一日	農林主事補	西嶋作次郎
採用年月日	備員名	名
大正十五年八月五日農手ヨリ轉ス	牧手	寺下九平
大正十五年八月十六日	同	森谷宏

ハ、職員及傭人ノ異動

昭和二年十一月三十日	同	伊藤政名
昭和二年十二月四日	同	佐野伊登志
昭和三年六月一日	農手	富田與作
昭和四年三月二十九日	小使	五十嵐松雄

任命備年月日	退職解備年月日	職備名	氏名
昭和四年四月四日	昭和四年四月四日	場長事務取扱 地方事務官	宮川弘
昭和四年三月二十九日		場長 地方農林技師	坂井健一郎
		小使	五十嵐松雄

郡市別	實地指導回数	講習回数	講話回数	經理事務回数
坂井郡	一九	三四	四	一〇
吉田郡	二	二	一	二
足羽郡	三	五	一	一

ニ、職員出張
イ、縣内

大野郡	九	一四	一	二	一	一
今立郡	八	二	三	五	一	一
丹生郡	二	七	二	三	一	一
南條郡	四	七	五	一六	一	一
敦賀郡	一〇	三	一	九	一	一
三方郡	六	六	三	九	一	二
遠敷郡	一〇	三	一	四	一	二
大飯郡	八	三	三	一〇	一	一
計	一〇〇	一四	二	六	三	五

事務打合會議 一回 六日
 視察及調査 二回 八日
 打合及種卵購入 一回 六日
 講習受講講 一回 九日
 計 五回 二十九日

ホ、參觀人員

區分	官公吏	農及畜産業	學生々徒	計
人員	四	二七	二八	五九

ヘ、質疑應答
 文書ニヨル質疑及參觀ト質疑トヲ兼ネタル來場者等ニハ常ニ實地ニ就キ懇切叮嚀ニ回答及指導セリ

ト、文書發收件數

區分	發	送	收	受
件數		一、六五件		二、一五件

第二章 種畜種禽

一、畜牛

本縣產牛ノ改善ヲ圖ランカ爲メ乳用種ニアリテハ「ホルスタイン」種役肉用種ニアリテハ改良和種ヲ飼養蕃殖セリ生産積中牝ハ縣内希望者ニ拂下ケテ改良ノ原種トナシ牡牝ハ育成ノ上体格及發育ヲ考查シ種用ニ供セントス年度末現在ノ畜牛數ヲ示セハ次表ノ如シ

イ、畜牛現在表

名	號	種類	性	生年月	毛色	產地	血統
第二十八サージョ ハナビーターチエ マシードス		ホルスタイン	牡	大正十二年八月	黑白班	北海道	父サージョハナ、ビーターチエマシードス 母アーチーセーロー、アイダロットセコンド

フイーマン	同	牝	大正十二年	白黒班	岩手縣	父ロードヨールヘム號 母第五ヘンドリカ號
第三スシセコン ドオームスビー	同	牝	大正十二年	黒白班	北海道	父サージョハナ、ビーターチエーマシードス號 母アーチーセロー、スビーセコンド號
スシ三世號	同	牝	昭和三年	黒白班	當場	父第二十八サージョハナ、ビーターチエーマ シードス號 母第三スシセコンド、オームスビー號
ダイヤモンドチェ 四世	同	牝	昭和三年	黒白班	當場	父第二十八サージョハナ、ビーターチエーマ シードス號 母ダイヤモンド號
フイーマン五世	同	牝	昭和三年	白黒班	當場	父第二十八サージョハナ、ビーターチエーマ シードス號 母フイーマン號
フイーマン六世	同	牝	昭和三年	黒白班	當場	父第二十八サージョハナ、ビーターチエーマ シードス號 母フイーマン號
スシ四世	同	牝	昭和五年	白黒班	當場	父第二十八サージョハナ、ビーターチエーマ シードス號 母第三スシセコンド、オームスビー號
第十九大鳳號	改良和種	牝	大正十年	黒	鳥取縣	不明
第二十四高山號	同	牝	大正十年	黒	島根縣	不明
出雲二世	同	牝	昭和二年	黒	當場	父不明 母出雲號
出雲	同	牝	大正十三年	黒	島根縣	不明
出雲四世	同	牝	昭和四年	黒	當場	父島若號 母出雲號

口、畜牛移動表

第三ネザラランド ランサーオムスビー	ホルスタ イン	牝	大正十二年	黒班白	北海道	六月十三日腸炎ニテ斃死
ダイヤモンド エー三世	同	牝	昭和二年	黒班白	當場	吉田郡畜産組合へ貳百五十圓ニ テ拂下
フイーマン四世	同	牝	昭和三年	黒班白	當場	南條郡農會へ百八十五圓ニテ拂 下
ネザラランド 三世	同	牝	昭和三年	黒班白	當場	足羽郡畜産組合へ貳百七十圓ニ テ拂下
第十九大鳳號	改良和種	牝	大正十年	黒	鳥取縣	縣ヨリ保管轉換
第二十四高山號	同	牝	大正十年	黒	島根縣	縣ヨリ保管轉換
スシ四世	ホルスタ イン	牝	昭和五年	黒班白	當場	生産

ハ、種牡牛種付成績及分娩表

名 號	昭和四年		種付年月	成績	昭和三年		種付年月	分娩年月	産犢
	供用種牡牛	種付年月			供用種牡牛	種付年月			
フイーマン	第二十八サージョハナ ターチエーマシードス	昭和四年 五月十二日	昭和四年 五月十二日	姪					
第三スシセ コンドオーム スビー	同	昭和四年 五月	昭和四年 五月						

スシ―三世	小鶉號	昭和五年 一月、二月	不妊		
出雲	第十九大鳳號	昭和四年七月、十月、十一月、十二月	不妊	島若號	昭和三年五月 昭和四年三月九日 分娩

ニ、種牡牛餘勢種付成績表

供用種牡牛	本年度内種付頭數	同上	回數	同上	受胎數	前年生	本年種付	本年種付
第二十八サージョハナビ ターチエーマシーデス	一七頭	二元	八	三	二	五	一	計

ニ、豚

豚ハ「ヨークシャー」種ノ純粹蕃殖ヲ行ヒ生産仔豚ハ育成ノ上希望者ニ拂下ケ以テ縣下養豚業ノ普及發達ヲ圖リ尙近親蕃殖ノ弊ヲ避ケ血液ノ更新ヲ計ランカタメ新血二頭ヲ購入セリ

イ、豚 現在表 (年度末現在)

一、種牡豚 一頭

種類	名	號	生年月	産地	購入年月	飼養延日數
ヨークシャー種	ヒストンチャンピオン	ワンドラ號	大正十五年四月	千葉縣	大正十五年九月	三六五日

二、候補種豚 二頭

種類	名	號	性	生年月	産地	購入年月	飼養延日數
ヨークシャー種	ヘンドリー ローズビード號		牡	昭和四年十月	農林省畜産試験場	昭和五年一月	六三日
同種	ヘラルド ポツビーブ號		牝	昭和四年十一月	農林省畜産試験場	昭和五年一月	六三日

三、種牝豚 八頭

種類	名	號	生年月	産地	購入年月	飼養延日數
ヨークシャー種	若葉		大正十三年三月	農林省畜産試験場	大正十三年九月	三六五日
同	千葉		大正十一年八月	同上	大正十三年九月	三六五日
同	ヒストンロバ プライドナ		大正十五年三月	同上	大正十五年七月	三六五日
同	レットヂエ ル		大正十五年六月	千葉縣	大正十五年九月	三六五日
同	やまがらをかだ		昭和二年八月	福井縣	昭和二年十月	三六五日
同	てふをかだ		昭和三年一月	福井縣	昭和三年三月	三六五日
同	第二 やまがらをかだ		昭和三年四月	福井縣	昭和四年三月	三六五日
同	福千		昭和二年六月	當場	昭和三年五月編入	三六五日

四、仔豚

種類	名	種	類	性	生年月	産地	移動月日	摘	要
右	同	レツトジエ ウエル	同	牝	昭和五年 一月廿五日	當場	昭和四年 十月廿日	妊娠中	四 七 二 二
右	同	ヒストンロバ プラインドナ	同	牝	昭和五年 四月廿日	同	同	妊娠中	三 八 二 五
右	同	千 葉	同	牝	昭和五年 六月廿日	同	同	妊娠中	五 三 八 二
右	同	葉 櫻	同	牝	昭和五年 五月廿日	同	同	不妊	三 七 一 一
ヨークシャー	若	葉	同	牝	昭和五年 六月十日	同	同	妊娠中	三 二 五 一

種類	名	種	類	性	生年月	産地	移動月日	摘	要
同	同	レツトヂエ ウエル	同	牝	昭和五年 三月十九日	當場	昭和四年 十月廿日	妊娠中	九 八 一七
同	同	福千號ノ仔	同	牝	昭和五年 三月十六日	同	同	妊娠中	五 三 六
同	同	てふをかだ號ノ仔	同	牝	昭和五年 三月十九日	同	同	妊娠中	九 三 八
計									

八、種豚種付成績表

口、種豚異動表

郡市別	大正十四年度		昭和元年度		昭和二年度		昭和三年度		昭和四年度	
	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格
丹生郡	八		二四		三三		四三〇〇		二四〇〇	
敦賀郡	二		二		四		二〇〇〇		二〇〇〇	
三方郡	四		六		一〇		二四〇〇		三六〇〇	
遠敷郡	三		三		六		一八〇〇		三六〇〇	
計	三五		四九		八四		二九五〇〇		二七八〇〇	

へ、最近五ヶ年間種豚拂下比較表

郡市別	大正十四年度		昭和元年度		昭和二年度		昭和三年度		昭和四年度	
	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格
足羽郡	一〇	八〇〇〇	二	一八三〇〇	—	—	—	—	—	—
吉田郡	—	—	四	三〇〇〇	四	五二〇〇	三	八六〇〇	六	三六〇〇
坂井郡	—	—	二	一八〇〇	一六	二八〇〇	—	—	二〇	二八〇〇
大野郡	—	—	—	—	—	—	二	一六〇〇	—	—
今立郡	五	一九〇〇	一四	一三三六〇	一三	二四六〇〇	三	二二〇〇〇	六	三六〇〇
丹生郡	二	二六〇〇	—	—	—	—	—	—	三	一六七〇〇
南條郡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	四	三三〇〇	三	八九〇〇	—	—	—	—	—	—

郡市別	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格
敦賀郡	五	四九〇〇	二	一四〇〇	—	—	—	—	四	二四〇〇
三方郡	二	二〇〇〇	—	—	—	—	二〇	一六三〇〇	一〇	六〇五〇
遠敷郡	七	七五〇〇	—	—	—	—	—	—	六	三六〇〇
福井市	—	—	一	九〇〇	六	五四〇〇	—	—	—	—
計	三六	三六〇〇〇	三	四八二六〇	三九	四七六〇〇	六八	四七〇〇〇	八四	四八七五〇

三、鶏

本縣ニ於ケル養鶏ハ逐年普及進歩ノ度ヲ増シ鶏種モ亦從來ハ雜駁ナリシモ漸次統一ノ氣運ニ向ヒツ、アルカ故ニ以下ニ掲クル種類ハ最モ適當ト認メ之レヲ飼育シ益々普及ニ努メタリ而シテ本年度ニ於テ養鶏部ヲ二分ノ一ノ擴張ヲナシタリト雖モ別表記載ノ如ク前年度ニ比シ益々拂下出願數ヲ増シ全能力ヲ傾注シテ之レカ生産ニ努メタルモ尙三分ノ一ノ拂下ヲ了シタルニ過キサルノ狀況ナリ今年度末現在種鶏數ヲ示セハ左ノ如シ

イ、種鶏現在表 (年度末現在)

區分	大正十四年度		昭和元年度		昭和二年度		昭和三年度		昭和四年度		計
	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計		
單冠白色 レグホン種	—	三	三	九	三	三	四	四	七	八	一七二
名古屋種	—	—	—	—	—	—	一	四	一五	一九	一七二
三河種	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

計	一	三	三	三	九	三	一	三	三	八	五	七	六	五	八	一	〇	八	二	六	一	九	二	〇	〇	二	九
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

口、種鶏拂下表

區分	單冠白色レグホーン種		名古屋種		横班プリマスロック種		計	
	人員	羽數	人員	羽數	人員	羽數	人員	羽數
足羽郡	六	五九	一	三	一	一	七	七二
吉田郡	二	四〇	二	五〇	一	一	三	四三
坂井郡	三	二六	二	二五	一	一	四	二九
大野郡	五	二三	一	一	一	一	五	二三
今立郡	一四	四六	三	五五	四	三	二	五四
丹生郡	一七	二七	一	一	一	一	一七	二六七
南條郡	一	三	一	一	一	一	一	三
敦賀郡	三	八	一	一	一	一	三	八
三方郡	一	一	一	一	一	一	一	一
遠敷郡	一〇	四九	二	三五	一	一	三	五〇
大飯郡	一	二五	一	五	一	一	二	二〇

福井市	九	一三三	一	五	一	二	二	二	一一	一九
計	八九	二、五〇九	三	一八	五	三	一〇六	二、七〇	二、七〇	

備考 本表ハ三十日雛、六十日雛、百日雛ノ拂下數ヲ主トスルモ本年度ハ特ニ初生雛ヲモ五百四十五羽ノ拂下ケテナシタリ

ハ、最近五ケ年間種鶏拂下比較表

種類	年次				
	大正十四年度	昭和元年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度
單冠白色レグホーン種	一〇九	六七六	五四八	一、六一五	二、五〇九
名古屋種	三三	一八五	九七	一六二	一八八
横冠プリマスロック種	一九	七	九	一	三
計	一五二	九六	六五四	一、七七七	二、七一〇

ニ、種卵拂下表

區分	單冠白色レグホーン種		名古屋種		横班プリマスロック種		計	
	件數	顆數	件數	顆數	件數	顆數	件數	顆數
足羽郡	四	六六	二	三五	一	一	六	一〇一
吉田郡	三	三六	三	四二	一	四	七	八一

ホ、最近五ヶ年間種卵拂下比較表

種 類	年 度	大正十四年度	昭和元年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度
坂井郡		七	一	五	一	八
大野郡		一				
今立郡		四	一	二	一	五
南條郡		三				三
丹生郡		四	二	三		六
敦賀郡		一				一
三方郡		二				二
遠敷郡		一	一	二		二
大飯郡		一				一
福井市		五		一		六
計		三五	一〇	一七	三	四七
種 類	年 度	七〇七	四三九	一、三六	七七	九六五

ヘ、種鶏種卵拂下出願數ト拂下數ノ對照

名 古 屋 種	横班アリマスロック種	計	種 卵		種 卵	
			出 願 數	拂 下 數	出 願 數	拂 下 數
名 古 屋 種			七、六三	二、五九	一、〇六	九六五
横班アリマスロック種			一七四	二	一四	二
計			八、五二	二、七〇	一、二七	一、二五

ト、人工孵化成績表ノ一 (供用解卵器別)

供用解卵器	入卵回数	成 績		積 績		有精卵ニ對スル孵化百分率
		入卵數	無精卵	破 損	死 籠	
温湯式		八	一、五三	一六	一〇七	八四、四
伴田一號器		七	一、三四	二六	九二	八六、三
伴田二號器		八	一、六〇	一四	九七	八四、九
伴田三號器						

計	温氣式 サイファ-器	長友二號器	同長友一號器	同柴田二號器	同柴田一號器	成		續		有精卵ニ對スル 孵化百分率			
						無精卵 發育中止其他	破損死	籠解	化				
計	四	六	四	九	三	九、八四	一、二五	六三〇	八二	七	八、八七	六、八九七	七九、三
同柴田一號器				三	三	四、五三	六	二	三	一	一、九	三、四二	八八、七
同柴田二號器				三	三	四、六〇	七	三	三	一	一、八	三、五七	八六、四
同長友一號器			九	九	九	一、七四八	三	三	五	五	一、四七	一、二六三	八二、二八
同長友二號器			四	四	四	一、八〇五	三	七	五	五	五、四二	九、五五	六〇、五
温氣式 サイファ-器	六					八、六九	一、四	八	五	五	八、九	五、〇	七、一九
計	四					九、八四	一、二五	六三〇	八二	七	一、〇八七	六、八九七	七九、三

千、同 表ノ二 (孵化月別)

月別	昭和四年 三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計	成		續		有精卵ニ對スル 孵化百分率
												無精卵 發育中止其他	破損死	籠解	化	
回解數	六	九	七	一、六〇	一、六〇	一、六七	一、三九	六七	八	八	三	七	七	七	七	八四、〇五
入卵數	一、〇〇四	一、六〇〇	一、二七	一、六〇	一、六〇	一、六七	一、三九	六七	八	八	三	七	七	七	七	八四、〇五
孵化數	六	九	七	一、六〇	一、六〇	一、六七	一、三九	六七	八	八	三	七	七	七	七	八四、〇五
計	一、〇〇四	一、六〇〇	一、二七	一、六〇	一、六〇	一、六七	一、三九	六七	八	八	三	七	七	七	七	八四、〇五
無精卵 發育中止其他	一、〇〇四	一、六〇〇	一、二七	一、六〇	一、六〇	一、六七	一、三九	六七	八	八	三	七	七	七	七	八四、〇五
破損死	一、〇〇四	一、六〇〇	一、二七	一、六〇	一、六〇	一、六七	一、三九	六七	八	八	三	七	七	七	七	八四、〇五
籠解	一、〇〇四	一、六〇〇	一、二七	一、六〇	一、六〇	一、六七	一、三九	六七	八	八	三	七	七	七	七	八四、〇五
化	一、〇〇四	一、六〇〇	一、二七	一、六〇	一、六〇	一、六七	一、三九	六七	八	八	三	七	七	七	七	八四、〇五
有精卵ニ對スル 孵化百分率	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	八四、〇五
計	一、〇〇四	一、六〇〇	一、二七	一、六〇	一、六〇	一、六七	一、三九	六七	八	八	三	七	七	七	七	八四、〇五

種別	昭和五年 一月	二月	三月	計	種別	昭和五年 一月	二月	三月	計
單冠 白色 レグ ホ- ノ種	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七	單冠 白色 レグ ホ- ノ種	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七
延羽數	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七	延羽數	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七
産卵數	二、三三三	一、八六六	一、八六六	五	産卵數	二、三三三	一、八六六	一、八六六	五
平均産卵數	二、三三三	一、八六六	一、八六六	四	平均産卵數	二、三三三	一、八六六	一、八六六	四
計	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七	計	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七

リ、産卵調査表

種別	昭和五年 一月	二月	三月	計	種別	昭和五年 一月	二月	三月	計
單冠 白色 レグ ホ- ノ種	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七	單冠 白色 レグ ホ- ノ種	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七
延羽數	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七	延羽數	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七
産卵數	二、三三三	一、八六六	一、八六六	五	産卵數	二、三三三	一、八六六	一、八六六	五
平均産卵數	二、三三三	一、八六六	一、八六六	四	平均産卵數	二、三三三	一、八六六	一、八六六	四
計	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七	計	三、三〇三	二、三三三	二、三三三	七

區分	種	計			三河種			横班		
		平均一羽一ヶ月 平均産卵數	産卵率	産卵數	平均一羽一ヶ月 平均産卵數	産卵率	産卵數	平均一羽一ヶ月 平均産卵數	産卵率	産卵數
レグホーン種	單冠白色	一八、八三	六二、七五	二、九二	一四、八〇	四九、三三	一、四九	一四、八〇	四九、三三	一、四九
	名古屋種	一七、六九	五九、五九	二、二四	六、三〇	二二、〇〇	三、六三	七、六一	二四、五五	一、二一
横班ブリマス	横班ブリマス	一〇、八四	三三、七四	一、八三	一〇、八四	三三、七四	一、八三	一〇、八四	三三、七四	一、八三
	三河種	一〇、四二	三九、六九	二、五七	一〇、四二	三九、六九	二、五七	一〇、四二	三九、六九	二、五七
平均	平均	一〇、三三	三六、九六	二、八三	一〇、三三	三六、九六	二、八三	一〇、三三	三六、九六	二、八三
	平均	一〇、三三	三六、九六	二、八三	一〇、三三	三六、九六	二、八三	一〇、三三	三六、九六	二、八三

又、最近四ヶ年間産卵成績比較表

昭和元年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度
一六三、七九	一七一、三〇	一八一、二九	一九九、〇六
一〇〇、一八	一三六、〇九	一三九、六七	一三九、六七
二二九、二二	一四二、四八	一〇六、六八	八三、三五
一四四、四二	一六三、三九	一六九、一九	一八四、四六

ル、産卵能力檢定終了鶏ノ成績概要

(年度末現在)

屋古名	種	種				種	生	年
		計	昭和三年	昭和二年	大正十五年			
昭和三年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和二年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和三年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和二年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和三年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和二年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和三年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和二年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和三年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和二年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和三年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和二年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上
昭和三年	單冠白色	計	昭和三年	昭和二年	大正十五年	大正十四年	以上	三〇〇卵以上

種	計	ヲ、年齢ト産卵トノ關係調査 (白色レグホーン種)											
		第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十		
合	計	一	三	三	四	七	八	七	七	九	六	八	九

産卵年次	雌鶏羽數	滿一ケ年 總産卵數	産卵數										
			最高	最低	平均	第一年ニ對シテ	第二年ニ對シテ	第三年ニ對シテ	第四年ニ對シテ	第五年ニ對シテ	第六年ニ對シテ	第七年ニ對シテ	
第一	年	三四	七、四七五	二七三	一八六	二九、八五	100%						
第二	年	三四	六、七五	二五七	一四二	一九、七九	八九、九七	100%					
第三	年	二二	二、〇〇一	二〇九	一一五	一六、八三	七五、八八	八四、三五					

ワ、育雛成績ノ概要

年度内孵化雛數六千八百九十七羽中成育ノ見込ナキ弱雛ヲ除キタル生存雛六千四百六十七羽ニ前年度繰越雛數七百五十三羽ヲ加ヘ七千二百二十羽ノ雛ヲ育成セシニ其成育歩合六割三分ニシテ前年度ニ比シ良好ナラザリシモ年度内拂下種雛數二千七百二十羽ニ及ヒ前年度ニ比シ九百四十三羽ノ増加ヲ示シ拔雄及斃死其他發育不良等ノタメ除去セシモノ三千百九十羽ニシテ翌年度へ繰越セシ雛數ハ千二百羽ナリ

第三章 飼養管理

一、飼 養

飼料ハ概テ次記飼料配合日量表ニヨリ給與シ經濟的飼養法ヲ主眼トシテ之ヲ行ヘリ即チ飼料トシテハ一般農

家ノ用フルニ苦マサルモノヲ基準トシ且ツ濃厚飼料ハ可及的之ヲ除キ粗飼料ヲ主トシ以テ消化器管ノ發育健全ヲ促スコトニ注意セリ給與其他ニ就テハ季節榮養狀態并用途別ニ據ルノ外發育中ノモノニアリテハ其程度ニ從ヒ適量ヲ一日三回ニ分與セリ給水ハ畜牛ニアリテハ食後之ヲ行ヒ種豚種鶏ニアリテハ終日容器ニ滿タシテ自由ニ飲水セシメタリト雖モ夕飼後ハ取除キ翌朝更ニ新鮮ナルモノヲ與ヘタリ牛ニアリテハ濃厚飼料ハ乾燥ノ儘之ヲ給シ根菜類ハ挫碎シテ與フルコト、セリ豚ニアリテハ夏季ハ水冬季ハ微温湯ヲ以テ攪拌粥狀トナセリ生牧草、青菜類ハ其儘給與セリ種鶏ハ季節ニヨリ異ルト雖モ概チ粉餌トシテ支給シ夕刻就寢前ニハ更ニ穀實ノ適量ヲ撒飼トシテ與フルコト、セリ各家畜家禽ニ就キ給與飼料ノ例ヲ擧ケレバ左ノ如シ

イ、畜牛飼料配合例

夏季ノ部		冬季ノ部	
種別	區分	種別	區分
種 牝 牛	六升	種 牝 牛	六升
種 牝 牛	九升	種 牝 牛	九升
候補種牛	三升	候補種牛	三升
穀	米	穀	米
糠	挽割大麥	糠	挽割大麥
大豆粕	大豆粕	大豆粕	大豆粕
青刈	生牧草	青刈	生牧草
蕪菁	敷	蕪菁	敷
野干草	・葉	野干草	・葉
敷藁	食	敷藁	食
食鹽	鹽	食鹽	鹽
六升	三升	三升	三升
一升五合	三升	一升五合	三升
一升五合	三升	一升五合	三升
一升	大豆粕	一升	大豆粕
〇、六〇〇	青刈	〇、六〇〇	青刈
四、五〇〇	蕪菁	四、五〇〇	蕪菁
一、五〇〇	野干草	一、五〇〇	野干草
一、〇〇〇	敷藁	一、〇〇〇	敷藁
五勺	食鹽	五勺	食鹽
六升	米	六升	米
三升	糠	三升	糠
三升	挽割大麥	三升	挽割大麥
一升五合	大豆粕	一升五合	大豆粕
一升五合	生牧草	一升五合	生牧草
一升五合	敷	一升五合	敷
一升五合	・葉	一升五合	・葉
一升五合	食	一升五合	食
一升五合	鹽	一升五合	鹽

種牝牛	九升	一升五合	三升	一升五合	〇、六〇〇	四、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	五勺
候補種牛	四升五合	一升五合	一升五合	一升五合	〇、三〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三勺

ロ、犢人工哺乳

當場生産犢ノ内「ホルスタイン」種ハ凡テ人工哺乳ヲ行フコト、シ其量及哺乳回数ハ性及發育状態ニヨリ幾分斟酌スルコト、セリ而シテ生後四週日ヨリ哺乳ノ傍ラ濃厚飼料ノ少許ト粗飼料ヲ給シ成育ト共ニ順次其ノ量ヲ増加セリ

ハ、種豚飼料配合例

種別	區分	穀	米	糠	大豆	粕	醬油	粕	生荳	草料
種牝豚		一升五合		二升	三合	三合	三百匁			一、五〇〇
種牝豚		一升五合		一升五合	三合	三合	三百匁			一、五〇〇

備考 前表ノ外牛骨粉ノ少量或ハ魚類ノ少許ヲ混與シ尙冬季ハ生牧草ニ代フルニ蕪菁ヲ給シ又体量、姪否

分娩等ニヨリ夫々加減セリ

ニ、種鶏飼料配合例

種別	區分	穀	米	糠	麥	糠	高粱	粃	玉蜀黍	大豆	粕	大割麥	鯨	粕	青	菜	貝	殼	
種冠白色		六	六	三	一	四	三	三	六			三	三	三			二	若	干
種レグホーン		六	六	三	四	三	六	三				三	三	三			二	若	干
種名古屋		六	三	四	三	六	三					三	三	三			二	若	干

横班	七	三	六	四	三	三	三	一				五	三	二	若	干
マスロツク	七	三	六	四	三	三	三	一				五	三	二	若	干
三河種	六	三	三	四	四	三	三	一				三	三	二	若	干

ホ、育雛飼料配合例 (重量比)

區分	飼付後三日間	孵化後一ヶ月迄	孵化後二ヶ月迄	孵化後三ヶ月迄
魚粉		一	一	一
米糠		一	一	七
穀		一〇	一〇	一〇
小麥		二〇	二〇	一〇
粃		一	一	一五
苞米		一〇	一〇	二〇
粟		二五	二五	一五
小		三五	一五	一〇

備考 骨粉、貝殼、青菜ハ適宜給與ノコト

ヘ、飼料ノ購買及消費

品目	購買及消費量	購入金額
穀	四、四九四〇〇	一、一〇一、七〇〇
米	四、〇六〇、六〇〇	七、五四三、三〇〇
玉蜀黍	八七六、三〇〇	四、五九七、五〇〇
大麥	一、三二二、〇〇〇	五、七七八、〇〇〇
粗粃	七〇六、五〇〇	二、二二五、〇〇〇
小麥	八六七、〇〇〇	三、四六六、三〇〇
高粱	一、四九〇、四〇〇	二、七七八、〇〇〇
玄粟	二八八、〇〇〇	一、一五四、〇〇〇
屑米	八八三、四〇〇	一、三三四、〇〇〇
胴鯧	五〇、〇〇〇	三、四二五、〇〇〇
鯧	五五五、八〇〇	三、八一九、五〇〇
鱸	七、〇〇〇	四、三二六、〇〇〇
醬油	七〇、〇〇〇	三、九七三、〇〇〇

大豆粕	六〇〇、〇〇〇	一、九九五、〇〇〇
魚頭粕	六七〇、〇〇〇	二、三八二、〇〇〇
食鹽	二四〇、〇〇〇	二、五二〇、〇〇〇
牛骨粉	一〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
貝殼	二〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
乾草	三、三四〇、〇〇〇	三、七七四、〇〇〇
大麥糠	二八三、〇〇〇	七、二二〇、〇〇〇
小麥糠	五〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
藁	六、〇八九、〇〇〇	六、〇八九、〇〇〇
海葱草	一〇、〇〇〇	九、五〇〇、〇〇〇
ケール種子	〇〇五、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇
大豆	六、二五〇、〇〇〇	一、四一四、〇〇〇
パールミソレット	〇五〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇
計		五、二一七、〇〇〇

二、管理

動物ノ取扱ニハ常ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ以テ天賦ノ能力ヲ發揚セシムルコトニ努メタリ即チ畜牛ニアリテハ体梳拭ヲ日々嚴重ニ行ヒ汚染甚タシキ部分ハ微温湯ヲ以テ洗滌シ運動ハ季節及榮養狀態並分娩前後等ニヨリ多少斟酌ヲ加ヘタルモ種牡牛ニアリテハ牽運動或ハ繫索運動ヲ行ヒ牝牛ニアリテハ日々運動場ニ出シテ少クモ三時間以上ノ逍遙運動ヲ課ス豚及鶏ニアリテハ雨雪烈シカラサル限りハ常ニ舍内ト運動場トノ間隔ヲ開放シ逍遙セシム種鶏ニアリテハ冬季積雪ノ際ハ運動不充分ナルカ故ニ搔床ヲ作り搔撥運動ヲナサシメタリ舍内ノ清潔及空氣ノ交流ニ就テハ常ニ注意ヲ拂ヒ畜牛及豚ニハ敷藁ヲ給シテ汚染甚タシキ部分ハ日々交換補給シ換氣ノ調節ハ夏ハ冷涼ニ冬ハ温暖ニ保タシメ空氣ノ交流ヲ良好ナラシメタルモ愛護過度ニ過キテ體質ヲ羸弱ナラシメサル様注意シ特ニ風雪寒ク又炎暑ノ際ト雖モ相當時間内ハ舍外ニ出シテ個體ノ抵抗力ヲ旺盛ナラシムル様努メタリ疾病ニ對シテハ特別ナル注意ヲ拂ヒ努メテ未然ニ防遏スルノ策ヲ講セリ畜牛ノ護蹄ニ關シテハ特ニ注意ヲ拂ヒ年二回春秋ノ期ニ矯正削切ヲ行ヒ以テ肢蹄ノ保全ヲ圖レリ、畜牛結核病ノ検査ハ春秋二期「ツヘルクリン」ノ應用ニヨリ之ヲ行ヘリ

第四章 乳肉加工

一、乳加工

當場生産ノ牛乳中犢育成ノタメ使用セシ殘餘ハ一部生乳ノ儘之ヲ拂下ケ一部ハ「バター」ノ製造及試験ニ供用セリ年度内生産牛乳ノ處分左ノ如シ

生産總乳量 一八、七五五、九封度
處分内譯 九、六四三、六封度
生乳拂下量

犢哺育量 四一、三封度

「バター」製造及試験用 九、〇七一、〇封度

「バター」生産量 二一四、〇封度

渣乳ハ犢及仔豚ノ飼料トシテ給與セシモ尙育雛及仔豚育成上特ニ酸乳ヲ試験的ニ用ヒタリ

二、肉加工

當場生産仔豚ニシテ体格及發育狀況ヲ考查シ種豚トシテ供用シ能ハサルモノ及種豚中老齡其他ノ原因ニヨリ受胎率減退セシモノハ肥臘試験ヲ行ヒタル後加工試験ニ供用セリ

供試豚參頭

區分	供試		
	福若號 牝	ミックオブアルハニ號 牡	葉櫻號 牝
生年 月	昭和二年六月	大正十五年四月	大正十二年九月
屠殺 月 日	昭和四年十二月十六日	昭和五年一月二十四日	昭和五年二月五日
生 体 重	三七、六〇〇	四一、〇〇〇	三三、〇〇〇
放 血 後 体 重	三六、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三三、〇〇〇
内 臟 總 量	四、四〇〇	五、一五〇	五、四七〇
頭	二、八〇〇	三、一五〇	三、一三〇
四 肢	〇、六七〇	〇、六九〇	〇、六八〇

皮	二、五〇〇	四、五七〇	二、九五〇
脂 肪	八、七〇〇	三、四九〇	二、二七五
精 肉 量	一四、四〇〇	一、九〇〇〇	一三、五三〇
骨	二、〇八〇	三、五五〇	二、九五〇
腸	一、一五〇	一〇、五四〇	七、五〇〇
ラ	四、八六〇	一、七三三	一、四〇〇
ラ	一、〇		
屠	三、六五〇	四、六五〇	二、六〇〇

第五章 鶏卵試験成績

一、鶏卵貯藏試験成績

鶏卵ノ貯藏試験ハ前年度ヨリ繼續施行セルモノニシテ今之レガ成績ノ概要ヲ述フレハ左ノ如シ

一、供試卵ハ當場飼養鶏ノ生産セルモノニシテ産卵後三日乃至五日以内ノモノヲ供用セリ

二、試験ノ種類別並貯藏方法

區 別	試験卵筒數	貯藏月 日	貯 藏 方 法
對照區 木箱 箱 入	八〇	五月二十三日	木箱内ニ單ニ貯藏セリ

第一區 試驗區 粉 殼	八〇	五月二十三日	木箱内ニ新鮮ナル粉殼ヲ精選充鎮シ其ノ中ニ試驗卵ヲ埋沒ス
第二區 10%液 硅酸曹達	九〇	五月二十三日	硅酸曹達七五〇瓦ヲ煮沸水六、七五〇瓦ニ溶解セシメ之レヲ硝子瓶ニ充シ其ノ液中ニ試驗卵ヲ浸漬ス
第三區 5%液 硅酸曹達	一〇〇	五月三十一日	硅酸曹達五〇〇瓦ヲ煮沸水九、五〇〇瓦ニ溶解セシメ之レヲ硝子瓶ニ充シ其液中ニ試驗卵ヲ浸漬ス
第四區 石灰水 上澄液	一二〇	六月 八日	煨性石灰五〇〇瓦ト飲水九、五〇〇瓦トノ割合ニ混和シ一日間靜置後其上澄液ヲ採リ之ヲ硝子瓶ニ充シ其ノ中ニ試驗卵ヲ浸漬ス

三、試験ノ方法並貯藏成績

對照區ニ於ケル試験卵貯藏後最初ノ一ヶ月間ハ五日目爾後ハ各日毎ニ二筒乃至五筒ヲ取出シ其内容ヲ調査シ卵質ノ變化如何ヲ檢セリ然シテ七月十日即チ貯藏後四十九日目ニ於テ對照卵ハ全部卵黃崩レ食用ニ供シ能ハサル程度ニ至リシヲ以テ爾後各區ニ互リ五日毎ニ三ヶ宛取出シ其内容ヲ檢査セリ

第一區 粉殼内貯藏試験ノモノハ貯藏後五十日迄ハ内容完全ニシテ生卵トシテ食膳ニ供用スルヲ得ルモ六十日ニ至レハ煮食スルヲ要シ七十日貯藏ノモノハ卵黃崩レ腐臭ヲ帶ヒ食用ニ適セサルモノ、如シ

第二區 硅酸曹達一〇%液ニ浸漬セルモノハ貯藏後八十日迄ハ卵質ニ變化ナク生卵ノ儘食用ニ供スルコトヲ得ルモ百十日ニ於テハ煮食スルヲ要シ百三十日ニ至レハ食用トシテハ不適當ナリ

第三區 硅酸曹達五%液ニ浸漬セルモノハ貯藏後八十日迄ハ内容ニ異狀ナク生卵トシテ食用ニ適スルモ百日ニ於テハ煮食スルヲ要シ百二十日ニ至レハ食用ニ適セサル状態ニアリ

第四區 石灰水上澄液ニ浸漬セルモノハ貯藏後九十日迄ハ卵質ニ變化ナク生卵トシテ食用ニ供スルコトヲ得ヘク百三十日ニ至ルモ煮食スレハ何等差支ナキ状態ニシテ最モ良好ナル結果ヲ得タリ

四、貯藏室ノ温度ハ事務所階上ノ北東ニアル一室ヲ用ヒタルカ故ニ寒暖ノ差甚ク殊ニ日中ハ甚ク上

昇シ鶏卵ノ貯藏室トシテハ不適當ナルモ止ムナク使用シタル爲メ豫期ノ成績ヲ收ムルコト能ハサリシハ甚
タ遺憾ナリ

五、結 論

本試験ハ昭和三年度ヨリ開始シ日尙淺キヲ以テ以上ノ成績ニヨリ速斷シ能ハサルモ第一區以外ノ各區ハ貯
藏後八十日間ハ何レモ卵質ニ異狀ヲ認メス商品ノ價值ヲ損セサルモノ、如シ就中第四區ニ於テハ成績最モ
良好ニシテ貯藏卵取出後ノ手觸リ等硫酸曹達貯藏ノモノニ比シ遙ニ好感ヲ與ヘ一般的ニ最モ應用シ得ル
可能性アリト認ム然シテ貯藏場所適當ナルニ於テハ尙一層ノ好結果ヲ得ヘク又貯藏ノ卵ハ鶏種ノ箇体別及
卵殻ノ厚薄等ニ大ナル關係アルモノ、如キヲ以テ昭和五年度ニ於テモ本試験ヲ繼續セントス

第六章 耕 作

一、農場經營ノ概況

本年度ニ於ケル農場經營ノ概況ハ既定方針ニ基キ實施セリ即チ飼料耕作物ノ作付延反別ハ二町八反歩ニシテ
外ニ一町一反一畝七歩ノ牧草栽培地ヲ有ス當場飼養家畜家禽數ニ比シ牧草地及耕作地ノ面積稍狭小ナルカ故
ニ之カ經營ニ就テハ最モ合理的農業經營ノ根本タル勞費及金肥ノ節約ニ一層留意シ收穫ノ最大ヲ期シタリ依
テ農場作業勞務ニハ專ラ常備農手ヲシテ之レニ當ラシメ播種期並ニ收穫時期ノ如キ短時日ニ多數ノ勞力ヲ要
スル場合ニハ臨時人夫ヲ傭役シテ作業進捗ヲ圖リ又耕起碎土等ニハ當場繫養ノ改良和種牛ヲ使役シ以テ作業
ノ能率増進ト勞力ノ節約ヲ圖リ併テ畜力利用ノ範ヲ示セリ肥料ハ全部當場産ノ家畜家禽ノ糞尿ヲ用ヒタリト
雖モ各種作物ノ發育狀況ヲ參酌シ各種家畜家禽ノ糞尿ヲ混シテ堆肥トシタルモノヲ施用シ或ハ單用スル等施
肥期ニヨリ各肥料ノ特效性ヲ利用シ殆ント金肥ヲ施用セスシテ努メテ生産費ノ輕減ヲ圖ル等集約的經營ヲナ
シ以テ有畜農業ノ範ヲ示セリ

二、飼料作物栽培ノ概況

飼料作物ハ粗飼料ノ自給自足及栽培試驗ノ目的ヲ以テ栽培セリト雖モ耕作牧草地ノ狭少ナル爲メ耕作牧草ノ
ミニテハ常ニ不足ヲ告ケ野草ヲ以テ補足スルノ狀況ナリシモ近年ハ幸ニ野草ヲ購入シタルノミニテ生草ハ
全ク自給自足ノ目的ヲ達シ得タルモ牧草ハ一般ニ播種後數ケ年ヲ經過シタルタメ稍々荒廢シタルカ故ニ逐年
更新スルノ要ヲ生シ十月下旬五反餘歩ノ牧草(オーチャードグラス及ヒクロバ)播種ヲ行ヘリ
栽培作物ハ表作トシテ青刈大豆青刈燕麥埋藜用玉蜀黍馬鈴薯龍舌菜及少許ノ西瓜等ヲ栽培シ裏作トシテハ燕
麥、育雛用莖苔、カキハ大根等ヲ栽培セリ而シテ各種作物ノ發育ハ概シテ良好ナリシモ青刈大豆ノ刈取乾燥
收納期ニ降雨多カリシ爲メ品質稍々劣リ收量モ亦減少セリ

イ、飼料作物栽培成績表

區 分	作付反別	播 種 期	反當 播種量	反當 施肥量	收 穫 期	反當 收 量	總 收 量
青刈大豆	一 町	自四月二十三日 至四月二十六日	五升 (摘播)		自七月二十三日 至八月十二日	生五〇〇貫	五、〇〇〇貫
青刈燕麥	二 反	自四月十六日 至四月二十日	八升 (條播)	牛尿一〇〇荷	隨 時	二、〇〇〇貫	四、〇〇〇貫
埋藜用玉蜀黍	二 反	自四月二十三日 至四月二十三日	七升 (點播)	堆肥六〇〇貫 牛尿五〇荷	自七月二十三日 至七月二十五日	一、〇〇〇貫	二、〇〇〇貫
馬鈴薯	五 畝 步	自三月二十一日 至三月二十二日	三十貫 (植付)	堆肥五〇〇貫 牛尿五〇荷	自七月七日 至七月十日	三〇〇貫	一、五〇〇貫
龍舌菜	五 畝 步	四月十五日	三合 (摘播)	堆肥五〇〇貫 牛尿七〇荷	隨 時	五〇〇貫	二、五〇〇貫
燕麥	一町二反歩	自八月十七日 至八月二十三日	六合 (條播)	堆肥六〇〇貫 牛尿一〇〇荷	十一月一日以降	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫

育雛用蕁苔	七畝	九月二日	四合	牛尿	一〇〇荷	翌	春	豫想	三〇〇貫	豫想	二〇〇貫
西瓜	三畝	四月二十五日	三合	堆肥	八〇〇貫	自七月三十日	日	八八三貫	二六八貫		

備考 一、育雛用蕁苔ハ翌春使用スルタメ栽培セシモノニシテ本表ニハ豫想収量ヲ記載セリ
 一、蕁苔ノ收穫量ハ葉付ノ貫數ヲ示ス
 口、牧草收穫表

區分	面積	一番刈				二番刈				三番刈				四番刈				反當収量	總収量
		坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量			
オーチャードグラス	四反歩	三、五四〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、八〇〇	二、一九〇	〇、八〇〇	二、一九〇	〇、八〇〇	二、一九〇	〇、八〇〇	二、一九〇	〇、八〇〇	二、一九〇	〇、八〇〇	八、七六〇			
レッドクローバー	二反六畝一步	三、三〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	二、三三〇	一、五〇〇	一、二〇〇	九三七	二、三三〇	一、五〇〇	一、二〇〇	九三七	二、三三〇	一、五〇〇	六、一五九			
野生草	四反五畝六歩	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、三三〇	一、〇〇〇	〇、三三〇	一、〇〇〇	〇、三三〇	一、〇〇〇	〇、三三〇	一、〇〇〇	〇、三三〇	一、〇〇〇	〇、三三〇	八、八二四			

備考 一、「オーチャードグラス」ハ條播トシ「クローバー」ハ撒播セリ
 一、牧草地荒廢セシタメ毎年更新ヲ行フモ尙四反六畝六歩ハ更新不可能ナリシタメ野草繁茂セシカ故ニ其儘ニ使用シ十一月ニ至リテ三反歩餘ノ新播種ヲ行ヘリ
 一、「クローバー」栽培地モ亦荒廢ニ傾キ収量減少セシガ故ニ十一月之カ更新ヲ行ヘリ
 ハ、農場作業使用人員及賃金月別表

月別	使用人員		賃金	主 要 作 業
	男	女		
四月	三、〇〇人	三、〇〇人	五、四〇	青刈大豆播種、青刈燕麥播種、西瓜播種、牧草地ノ手入及施肥、苜蓿栽培ノ手入及施肥

月	男	女	賃金	主 要 作 業
五月	三、五	二、五	六、〇五	牧草地ノ手入並施肥、牧草刈取、青刈大豆、除草、青刈用燕麥刈取、青刈燕麥施肥及中耕
六月	三、〇	三、五	六、九〇	蕁苔播種、青刈用燕麥刈取、青刈大豆除草、中耕牧草地施肥
七月	七、五	一、七	一、〇八五	青刈大豆刈取乾燥及收納作業、牧草地施肥、西瓜藁敷及整枝、西瓜收穫
八月	一、四九〇	四、〇	一、二一〇	青刈大豆刈取乾燥收納作業、蕁苔播種、蕁苔間引及施肥、牧草地ノ手入及施肥
九月	六、五	五、五	一、三六五	西瓜蔓上、蕁苔間引及追肥、蕁苔播種、牧草地施肥
十月	五、五	一、五〇	八〇二五	蕁苔間引及追肥、牧草地手入及施肥牧草播種、苜蓿移植
十一月	三、五	五、五	四、二五	青刈燕麥播種蕁苔收穫、蕁苔移植、牧草地施肥
十二月	六、五	二、五	八、五五	蕁苔收穫、堆肥製造
一月	三、〇	—	四、〇五	右同上
二月	二、〇	—	三、七〇	右同上
三月	四、〇	五、五	六、七〇	右同上
計	六三九、〇	一七九、五	九四九、〇〇	

二、飼料作物栽培努力調査表
 最モ集約的ナル操作ヨリ最大ノ收穫ヲ得ヘク毎年之カ作業努力ノ調査ヲ行ヒ以テ生産費ノ節減ニ留意セリ
 今各種飼料作物ノ栽培ニ要セシ作業人員並所要經費ノ主ナルモノヲ示セハ左ノ如シ

(1) 青刈大豆

(作付反別一町步)

作業別	作業期間	作業延日數	所要人員		賃金	摘	要
			男	女			
畦立	自四月一日至四月五日	五、〇	四、八	一、八	五、八		
播種	自四月二十三日至四月二十八日	六、〇	—	一、〇、五	六、三〇		
補播	自五月十三日至五月十四日	二、〇	—	四、〇	二、四〇		
除草	自五月十一日至六月十三日	二、〇	二、七、〇	一、〇	三、五七〇		
中耕	自六月十六日至六月二十九日	一、〇	二、二、五	—	一、六二五		
刈取	自七月二十六日至八月三日	二、〇	二、一、〇	—	一、四三〇		
乾燥收納	自七月三十日至八月十二日	五、〇	一、六、〇	—	二、〇八〇		
計		六〇、〇	七、一、〇	一、五、五	一〇、一六〇		
作業別	作業期間	作業延日數	所要人員		賃金	摘	要
整地	自四月八日至四月九日	三、〇	五、〇	一、八	六、五〇		
畦立	自四月十九日至四月十九日	二、〇	四、〇	—	五、二〇		

(2) 青刈燕麥

(二反步)

作業別	作業期間	作業延日數	所要人員		賃金	摘	要
			男	女			
播種	自四月二十七日至五月十一日	四、〇	四、〇	—	五、二〇		
除草	自六月六日至七月五日	三、〇	三、〇	—	三、九〇		
施肥	自五月十三日至七月七日	三、〇	三、〇	—	三、九〇		
中耕	自六月八日至六月二十五日	三、〇	六、〇	—	七、八〇		
刈取	自七月二十一日至七月三十一日	六、〇	三、〇	—	三、九〇		
計		二四、〇	二六、〇	—	三六、四〇		

(3) 埋菟用玉蜀黍

(二反步)

作業別	作業期間	作業延日數	所要人員		賃金	摘	要
			男	女			
整地	自四月十七日至四月十七日	三、〇	三、〇	—	三、九〇		
畦立	自四月十八日至四月十九日	二、〇	二、〇	—	二、六〇		
施肥(基)	自四月二十二日至四月二十二日	三、〇	五、〇	—	六、五〇		
播種	自四月二十三日至四月二十四日	一、五	—	一、五	〇、九〇		
補種	自五月十一日至五月十一日	二、〇	—	二、〇	一、二〇		
除草	自五月六日至五月七日	二、〇	二、〇	—	二、六〇		

作業別	作業期間	延日數	所要人員		賃金	摘要
			男	女		
施肥	五月十六日	〇、五	〇、五	—	〇六五〇	
土寄	五月二十日	〇、五	〇、五	—	〇六五〇	
收穫	自七月三日至七月一日	二、〇	—	一、五	〇九〇〇	
計		七、五	三、五	四、〇	六九五〇	
整地	自七月二十九日至八月九日	八、〇	二、九	—	三七〇〇	
畦立	自八月十日至八月二十二日	八、〇	一、六	—	一四五〇	
施肥	自八月二十日至八月二十二日	八、〇	四、五	—	五八五〇	
播種	自八月二十一日至八月二十二日	五、〇	五、〇	—	六五〇〇	
第一回間引	自九月一日起至九月十日	六、〇	一、〇	二、五	一六六〇〇	
除草	自九月十一日起至九月十六日	三、〇	—	五、〇	三〇〇〇	
第一回追肥	自九月十六日至九月十五日	五、〇	五、〇	—	六五〇〇	
第二回間引	自九月十七日至十月十七日	七、〇	—	二、五	一五〇〇〇	

(5) 蕪菁 (一町二反)

作業別	作業期間	延日數	所要人員		賃金	摘要
			男	女		
施肥	自六月二十一日至六月六日	二、〇	二、〇	—	二六〇	
中耕	自六月六日至六月八日	三、〇	三、〇	—	三九〇	
土寄	自六月九日至六月十日	二、〇	二、〇	—	二六〇	
刈取詰込	自七月二十三日至七月二十六日	四、〇	一、八	—	二三四〇	
根堀	自八月四日至八月八日	五、〇	七、五	—	九七五	
計		二九、五	四、五	三、五	五九九五	
整地	四月一日	一、〇	一、〇	—	一三〇〇	
施肥(基)	四月二日	〇、五	〇、五	—	〇六五〇	
畦立	四月二日	〇、五	〇、五	—	〇六五〇	
播種	四月二日	一、〇	—	一、五	〇九〇〇	
除草	五月十四日	一、〇	—	一、〇	〇六〇〇	
中耕	五月十五日	〇、五	〇、五	—	〇六五〇	

(4) 馬鈴薯 (五畝歩)

第二回追肥	中耕	第三回間引	第三回追肥	收納作業	計
自十月六日至十月十日	自十月十一日至十月十五日	自十月二十五日至十一月三日	自十一月二日至十一月三十一日	自十一月一日至翌年三月卅一日	
七、五	八、〇	五、〇	二、〇	一七、〇	八九、五
七、五	一六、〇	—	二、五	八、五	三六、〇
—	—	一五、〇	—	—	七〇、五
九七、五〇	二〇八、〇〇	一九〇、〇〇	三三五、〇〇	一一〇五、〇〇	三九一、〇〇

本、飼料作物耕作反當所要人員表

種別	反當所要延人員		同上賃金	勞賃ニ對スル飼料作物ノ單價
	男	女		
青刈大豆	七、一〇	一、五五	一〇二、〇〇	一、〇一六
青刈燕麥	一四、〇〇	—	一八二、〇〇	〇、一八二
埋藪玉蜀黍	三三、二五	一、七五	二九九、七〇	〇、二九九
馬鈴薯	七、〇〇	八、〇〇	一三九、〇〇	〇、〇四一
龍舌菜	三、〇〇	二、〇〇	五二、〇〇	〇、一〇一
蕪菁	一一、三三	五、八七	一八二、五〇	〇、二八二

育雛用藎苔	三、〇〇	二、〇〇	五二、〇〇	青刈十貫ニ付	〇、一七〇
-------	------	------	-------	--------	-------

第七章 指導獎勵

一、質疑應答及講習講話

講習講話ハ主催者ノ申請ニヨリ場員出張之レニ當リ質疑應答ハ懇切丁寧ヲ旨トシ尙來觀者ニ對シテハ詳細實地ニ就キ指導セリ

附

錄

福井縣立種畜場職制

第一條 種畜場ハ左ノ業務ヲ行フ

- 一、種畜種禽ノ蕃殖並ニ育成ニ關スル事項
- 二、種畜種禽及種卵ノ貸付又ハ配付ニ關スル事項
- 三、種畜ノ種付並ニ牛馬ノ受託育成
- 四、家畜家禽ノ改良蕃殖及育雛ニ關スル試験
- 五、家畜家禽ノ肥臘法ニ關スル試験
- 六、乳製品及肉製品ニ關スル試験
- 七、家畜家禽ノ飼料ニ關スル試験
- 八、畜産ニ關スル講話講習及質問應答ニ關スル事項
- 九、見習生ノ養成ニ關スル事項

第二條 種畜場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長

技師

技手

主事補

場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 場長ハ知事ノ命ヲ受ケ場員ヲ指揮監督シ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師及技手ハ場長ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス

第五條 主事補ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ關スル事務ニ從事ス
第六條 本場ノ業務執行ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

福井縣立種畜場處務規程

第一條 場長ハ事務處理ノ爲經伺ノ上場中處務細則ヲ設クルコトヲ得
第二條 場長ハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得

- 一、職員ノ配置及事務分掌ニ關スルコト
- 二、職員ノ歸省看護墓參及轉地療養願ヲ許可シ又ハ除服出務ヲ命スルコト
- 三、職員ノ縣内出張ヲ命スルコト
- 四、豫算定額内ニ於テ雇員以下ヲ採用解免スルコト
- 五、其他輕易ナルコト

第三條 場長ハ職員ノ進退功過ヲ知事ニ具申スルコトヲ得 但シ雇員以下ノ功過ニ付テハ經伺ノ上賞與又ハ懲戒ヲ行フモノトス

第四條 場長事故アルトキハ上席技手其事務ヲ代理スヘシ

第五條 場長ハ其ノ主管事務ニ付官公署其他ト照會往復ヲナスコトヲ得

第六條 場長縣外ニ出張セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ職員ヲ縣外ニ出張セシメムトスルトキ亦同シ

事急ニシテ前項ノ手續ヲ經ル暇ナキトキハ其ノ事由ヲ開申スヘシ

第七條 場長ハ毎年二月末日迄ニ翌年度試驗調査ノ設計及事業計劃ヲ立テ知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ設計又ハ計劃ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第八條 試驗及調査ノ成績ハ其結了ノ都度事務及業務功程報告書ハ年度終了後一箇月内ニ場長ヨリ知事ニ提出スヘシ

福井縣立種畜場處務細則

第一章 事務分掌

第一條 本場ニ左ノ係ヲ置ク

- 一、業務係
 - 二、庶務係
- 第二條 各係ノ分掌事項左ノ如シ

- 一、種畜種禽蕃殖並ニ育成ニ關スル事項
- 二、種畜種禽及種卵ノ貸付又ハ配付ニ關スル事項
- 三、種付受託育成ニ關スル事項
- 四、家畜家禽ノ改良蕃殖及育雛試驗ニ關スル事項
- 五、家畜家禽ノ肥臘法及乳牛能力試驗ニ關スル事項
- 六、乳製品及肉製品ノ試驗ニ關スル事項
- 七、家畜家禽ノ飼料試驗ニ關スル事項
- 八、家畜家禽ノ衛生及畜舎ノ整理ニ關スル事項

- 九、耕作ニ關スル事項
- 一〇、畜産ニ關スル講習講話及質疑應答ニ關スル事項
- 一一、練習生ノ養成ニ關スル事項
- 一二、畜産上特ニ必要ト認メタル事項

庶務 係

- 一、場長印及場印保管ニ關スル事項
- 二、職員備員練習生ノ身分進退服務ニ關スル事項
- 三、機密ニ關スル事項
- 四、場内取締ニ關スル事項
- 五、文書物品ノ收受整理保存ニ關スル事項
- 六、物品購入、生産物並不用品處分ニ關スル事項
- 七、經費豫算ニ關スル事項
- 八、財産管理ニ關スル事項
- 九、會計整理ニ關スル事項
- 一〇、他係ニ屬セサル事項

第二章 處務 順序

- 第三條 本場ニ到達シタル公文書ハ庶務係ニ於テ之ヲ收受シ文書件名簿ニ記載ノ上場長ノ檢印ヲ受ケ主任者ニ交付スルモノトス 但シ親展ノ表記アルモノハ其ノ旨記載シ受信者ニ交付スヘシ
- 第四條 機密文書ハ場長ノ指揮ニ依リ處理スヘシ
- 第五條 事務ハ凡テ場長ノ決裁ヲ經テ之ヲ施行スルモノトス 但シ輕易ナルモノハ首席者若ハ主任者ニ委

任スルコトアルヘシ

- 第六條 主任者擔任事務ヲ處理シタル時ハ係員ニ合議ノ上場長ノ決裁ヲ請フヘシ 但シ場長ノ不在ノ場合ハ主任者其ノ代決ヲ爲シ重要事項ハ場長ノ後關ヲ受クヘシ
- 第七條 生産物ハ其ノ都度數量ヲ一定ノ帳簿ニ記入シ場長ノ檢印ヲ受クヘシ其ノ賣却又ハ配付スヘキモノ亦同シ
- 第八條 文書ノ決裁ヲ得タル時ニハ直ニ庶務係ニ交付シ庶務係ハ之ヲ淨書シ文書件名簿ニ記入シテ發送スヘシ
- 第九條 本場發送文書ハ畜發第何號受文書ニハ畜收第何號ト記入スヘシ
- 第十條 完結シタル文書ハ左ノ二類ニ分チ主任者ニ於テ之ヲ整理シ後日ノ參考ニ便ナラシムヘシ
 - 第一類 永年
 - 第二類 三ヶ年
- 第十一條 文書ノ編纂ハ曆年會計ニ關スル文書ハ會計年度ニ依リ更新スルモノトス

第三章 服務 心得

- 第十二條 職員出勤シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第十三條 職員疾病又ハ事故アリテ出勤シ能ハサル時ハ其ノ事由ヲ記シテ出勤時間迄ニ届出スヘシ若シ疾病ノ爲メ缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出スヘシ
- 第十四條 職員出勤時間中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ外出セムトスルトキハ場長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十五條 忌服ヲ受ケタルトキハ其ノ親族死亡ノ月日及續柄ヲ記シテ届出スヘシ
- 第十六條 父母ノ墓參病氣看護若クハ轉地療養ノ爲他行セムトスルトキハ其ノ期間及行先地ヲ明記シテ其ノ

事由ヲ具シ場長ニ願出許可ヲ受クヘシ轉地療養ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十七條 休暇ヲ受ケムトスルトキハ場長ノ承認ヲ受クヘシ
休日又ハ執務時間外ニ於テ任地ヲ離レムトスルトキハ其ノ行先ヲ明記シ届出スヘシ賜暇中旅行セムトスルトキハ其ノ旅行日數出發歸場ノ期日及行先地ヲ明記シ届出ツヘシ

第十八條 職員出張シタル時ハ歸場後五日以内ニ復命スヘシ 但シ事ノ輕易ニ屬スルモノハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第十九條 職員ハ事務ノ繁閑ニ依リ相互補助スヘシ

第二十條 職員退出ノ時ハ諸文書ヲ收藏シ所管ノ重要書類ハ宿直員ニ附託スヘシ

第四章 當直心得

第廿一條 當直ヲ分チテ宿直及日直トス

當直ハ接手又ハ主事補一名ヅ、交替勤務スヘシ

第廿二條 宿直時間ハ勤務時間終了後ヨリ翌日執務時間ノ開始ニ到ル迄トス日直ハ勤務時間限リトス

第廿三條 當直中到達シタル文書又ハ物品ハ當直簿ニ記入シ次ノ當直員又ハ庶務係ニ引繼クヘシ 但シ個人又ハ親展ヲ除外披見シ至急ト認ムルモノ若クハ電報ハ直チニ主任者ニ通報シ處分スヘシ

第廿四條 當直員ハ時々場内ヲ巡視シテ其ノ取締ヲ爲シ參觀者ノ案内ノ任ニ當ルヘシ

第廿五條 當直ニ缺勤者アルトキハ逐時次番ヲ以テ勤務シ缺勤者ハ隨時償勤スヘシ

左ノ場合ニ於テハ當直ヲ免除ス

一、新任者ハ就職ノ日ヨリ五日間

二、出張員ハ其ノ前日ヨリ歸場ノ當日迄

第廿六條 場内又ハ附近ニ出火其ノ他非常ノ事故アリタル時ハ當直員ハ直チニ場長及場員ニ急報シ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

第廿七條 本則ニ規定ナキモノハ福井縣廳中處務細則ヲ準用ス

種豚種禽種卵拂下規程

第一條 豚又ハ家禽ノ改良蕃殖ヲ爲スノ目的ヲ以テ種豚種禽又ハ種卵ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ別記様式ニ依リ縣立種畜場長ニ出願スヘシ

第二條 拂下クヘキ種豚種禽及種卵ノ種類並ニ其ノ代價ハ知事之ヲ定メ告示ス

第三條 種畜場長拂下ヲ許可シタルトキハ種豚種禽又ハ種卵ノ種類、性、生年月日、數量、代價、代金納付期限引渡期限ヲ指定シ之ヲ出願者ニ通知スヘシ

第四條 出願者前條ノ指定期限ニ代金ヲ納付セス若ハ物品引渡ヲ受ケサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第五條 拂受人ハ拂下ノ許可ヲ受ケタル物品ノ輸送ヲ請求スルコトヲ得 但シ輸送ニ要スル荷造費及運送費ハ拂受者ノ負擔トス

第六條 輸送中ニ生シタル損害ニ付テハ縣ハ其ノ責ニ任セス

第七條 拂下ヲ許可シタル物品ニシテ斃死廢疾其ノ他ノ事由ニ依リ引渡不能ニ至リタルトキハ種畜場長ハ拂下ノ許可ヲ取消スヘシ

第八條 前項ノ場合ニ於テ既ニ納付シタル代金アルトキハ之ヲ返還スヘシ

第九條 拂受人ハ拂下物品ニ付如何ナル事由アルモ拂下ノ取消代金ノ返還若ハ減額又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條 拂下種豚ノ血統書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ種畜場長ニ請求スヘシ

第九條 拂受人ハ種豚ニアリテハ拂下期日ヨリ貳箇年種禽ニ在リテハ壹箇年飼育スヘシ

第十條 拂受人前條ノ期間内ニ於テ、種豚、種禽ヲ賣買讓渡セムトスルトキハ其ノ事由及相手方ノ住所氏名ヲ具シ種畜場長ノ承認ヲ受クヘシ

斃死若クハ亡失シタル時又ハ己ムヲ得サル事由ニ依リ屠殺シタルトキハ拾日以内ニ種畜場長ニ届出ツヘシ

第十一條 拂受人ハ第九條ノ期間内ニ於ケル種豚種禽ノ飼育蕃殖ノ狀況ハ翌年一月末日限り種卵ノ孵化成績

ハ其都度種畜場長ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様 式

種 豚(種禽、種卵) 拂 下 願

一、何種牝(雌)又ハ牡(雄)何頭(何羽又ハ何個)

右種豚種禽種卵拂下規定ヲ遵守可致候條御拂下相成度此段相願候也

年 月 日

住 所 氏 名

名 印

福井縣立種畜場長宛

福井縣告示第七十八號

縣立種畜場ニ於テ拂下クヘキ種豚種禽種卵ノ種類並ニ其ノ代價左ノ通相定ム

大正十三年三月六日

一、種豚ヨークシャ種バークシャ種

イ、生後六十日ヨリ百五十日マデノモノ

一頭ニ付キ金五圓以上金貳拾五圓以下

ロ、生後百五十一日以上ノモノ

一頭ニ付金拾五圓以上金八拾圓以下

一、種鶏白色レグホーン種横班ブリマスロツク種及名古屋種

イ、孵化後百日マデノモノ

一羽ニ付金拾五錢以上金貳圓五拾錢以下

ロ、孵化後百一日以上ノモノ

一羽ニ付金五拾錢以上七圓以下

一、種卵白色レグホーン種横班ブリマスロツク種及名古屋種

一箇ニ付金拾錢以上金貳拾錢以下

種 牡 牛 種 付 規 程

第一條 本規程ハ國有貸付種牡牛及縣立種畜場ニ於テ飼育スル種牡牛ノ種付ニ之ヲ適用ス

第二條 種付ヲ受クヘキ牝牛ノ資格左ノ如シ

一、体格優良體質強健性質善良ナルモノ

- 二、年齢満十八ヶ月以上
- 三、体高四尺以上
- 四、遺傳性及傳染性疾病ナキモノ
- 第三條 種付ハ當該種牡牛ノ飼育場所ニ於テ毎日一回午前八時ヨリ日沒時迄ノ間ニ於テ之ヲ行フ 但シ止ヲ得ス二回行フ場合ハ少クトモ六時間ノ間隙ヲ置クモノトス
- 第四條 種付希望者ハ第一號様式ノ申込書ヲ種付ノ當日種牡牛ノ管理者ニ差出シ種付ヲ受ケムトスル牝牛ヲ種付場所ニ牽付クヘシ
- 不受胎ニ因ル次回以降ノ種付希望者ハ前項ノ申込書ニ前回交付ヲ受ケタル受付證ヲ添付スヘシ
- 第五條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ納入告知書ニ依リ所定ノ種付料ヲ納付スヘシ 但シ受胎セサルカ爲當初種付日ヨリ七十日以内ニ更ニ種付ヲ爲シタル場合ハ之ヲ徵收セス
- 不受胎其他事由ノ如何ニ拘ハラヌ既納ノ種付料ハ之ヲ還付セス
- 第六條 種付料ハ各種牝牛ニ付知事之ヲ定メ豫メ告示ス
- 第七條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第八條 國有貸付種牡牛ノ管理者ハ種付シタル牝牛ノ名稱種類年齢体高毛色特徴種付年月日及所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ翌月三日迄ニ當該郡長ニ報告スヘシ
- 前項報告書ハ種付回数ヲ記載シ第二回以後ニ在リテハ第一回種付ノ日ヨリ七十日以内ニ爲シタルモノト否トヲ區別シ附記スヘシ
- 第九條 種牡牛ノ管理者ハ種付シタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ニ對シ種付證ヲ交付スヘシ
- 第十條 種付ヲ爲シタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シタル時ハ事由ノ生シタル日ヨリ

十日以内ニ種付當時ノ種牡牛管理者ニ届出ツヘシ第一號ノ場合ニ在リテハ分娩ノ場所月日性毛色及特徴ヲ記載スヘシ

- 一、分娩シタル時
- 二、分娩前斃死シタル時
- 三、流産シタルトキ
- 四、分娩前賣却讓與又ハ交換シタルトキ
- 第十一條 血統書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ第二號様式ノ請求書ニ種付書ヲ添へ種付當日ノ管理者ニ提出スヘシ 但シ第十條第一號ノ手續ヲ爲シタル者ニ對シテハ血統書ヲ下付ス
- 第十二條 種付シタル牝牛及生産セシ牝牛ニ對シテハ検査ヲ行フコトアルヘシ
- 前項ノ検査場所ハ其ノ都度管理者之ヲ定ム

申 込 書

名 稱	種 類	生 年 月	体 高	毛 色 及 特 徵	備 考
-----	-----	-------	-----	-----------	-----

右種付致度ニ付御許可相成度種付料ハ御指定ノ期日ニ納付致可候也

年 月 日 宛 住 所 所有者又ハ管理者

(第二號様式)

血統書下付請求書

名	號	性	生年月日	毛色特徴	生産ノ場所	母牛血統
---	---	---	------	------	-------	------

右ハ國有(縣有)何々號ノ種付ニ依リ生産シタル者ニ付血統書御下付相成度種付證相添ヘ請求候也

年 月 日 住所 所有者又ハ管理者 氏 名

福井縣立種畜場候補種牡牛拂下規程

- 第一條 畜牛ノ改良増殖獎勵ノ爲メ種畜場生産ノ牡牛ニシテ種牡牛ト爲ルヘキ資質アルモノハ畜産組合、畜産組合聯合會、農會又ハ産業組合ニ限リ之ヲ拂下クルモノトス
- 第二條 前條拂下ノ候補種牡牛ニ關スル事項ハ其ノ都度縣報ヲ以テ之ヲ告示ス
- 第三條 候補種牡牛ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ別記様式ニ依リ種畜場長ニ願出ツヘシ
- 第四條 候補種牡牛ノ拂下價格ハ評價格ノ二分ノ一乃至三分ノ一トシ知事ノ認可ヲ得テ種畜場長之ヲ定ム
- 第五條 候補種牡牛ノ拂下ノ通知ヲ受ケタルモノハ指定期日內ニ代金ヲ納付シ現物ヲ引取ルヘシ
前項ノ手續ヲ爲サハルモノニ對シテハ拂下ヲ取消スコトアルヘシ
- 第六條 候補種牡牛ハ拂下ノ日ヨリ三箇年ハ其區域內ニ於テ種付ニ供用スル義務アルモノトス 但シ特別

ノ事由ニ因リ義務年限內ニ於テ之ヲ賣却、交換、讓渡、貸付又ハ屠殺セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ種畜場長ノ承認ヲ受クヘシ

種畜場長ハ前項ノ承認ヲ爲スニ付知事ノ認可ヲ受クヘシ

- 第七條 拂受人前條ノ義務年限內ニ於テ候補種牡牛ニ付盜難、失踪、斃死、撲殺、又ハ種付使用不能ノ事由ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ種畜場長ニ届出ツヘシ但シ斃死ノ場合ニ在リテハ獸醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添付スヘシ
- 第八條 拂受人前二條ノ義務ヲ果サハルトキハ拂下當時ノ評價價格ヨリ拂下價格ヲ控除シタル金額ノ全部又ハ一部ヲ違約金トシテ徴收スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様 式

候補種牡牛拂下願

一、何種候補種牡牛

何 頭

右種畜場候補種牡牛拂下規程ヲ遵守可仕候間御拂下相成度此段奉願候也

年 月 日

福井縣立種畜場長宛

何郡(市)何々組合(會)長 氏 名 印

備員心得

- 第一條 備員ハ職員ノ指揮ヲ受ケ懇切丁寧ヲ旨トシ業務ニ従事スヘシ
- 第二條 備員ハ業務始業時間二十分前ニ出勤シ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第三條 備員ハ業務ノ繁閑ニヨリ互ニ相補ケ現員交代ニ宿直スヘシ
- 第四條 備員ハ日曜祭日ト雖モ欠勤スルコトヲ得ス 但シ業務ニ差支ナキ限りハ各員ニ對シテ毎月一日隨時指定シテ休暇ヲ與フルモノトス
- 第五條 疾病忌引又ハ事故ノ爲缺勤セムトスルトキハ届出ツヘシ疾病ノ爲缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ノ添付ヲ要ス 但シ事故ノ爲缺勤セムトスルトキハ豫メ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 備員ハ各自取扱器具機械ヲ丁寧ニ扱ヒ常ニ清淨ナラシメ毀損亡失シタルトキハ其ノ旨係員ニ報告シ指揮ヲ俟ツヘシ
- 第七條 牧手ハ家畜家禽ノ飼養管理ニ注意シ非常事變及動物ニ異常アルヲ認メタルトキハ直ニ係員ニ報告シ其指揮ヲ受クヘシ但シ急ヲ要スル場合ハ便宜應急處置ヲ施シ直ニ係員ニ報告スヘシ
- 第八條 農手ハ耕耘及收穫物ノ保存農事ニ關スル一切ニ注意スヘシ
- 第九條 小使ハ場内ノ用ヲ辯シ職員退出後ハ事務所内外ヲ掃除シ戸締火氣等ニ注意スヘシ
- 第十條 宿直ノ際ハ場内外及畜舎ヲ巡視シ戸締火氣及ヒ家畜家禽ノ状態ニ注意シ苟モ異常ヲ認ムルニ於テハ其旨場員ニ急報スヘシ
- 第十一條 備員ハ執務時間外ト雖モ場又ハ附近ニ變災アルトキハ速ニ出場スヘシ
- 第十二條 牧手農手ノ就業時間左ノ如シ
但シ場務ノ都合ニ依リテハ幾分ヲ伸縮スルコトアルヘシ

一、牧手就業及休憩時間表

月別	作業時間	朝食及休憩時間	作業時間	晝食及休憩時間	作業時間
自一月一日至三月十五日	自午前七時卅分至同八時卅分	自午前八時卅一分至同九時三十分	自午前九時卅一分至同十二時	自午後零時一分至同一時	自午後一時一分至同五時
自三月十六日至四月三十日	自同六時三十分至同八時	自同九時一分至同十二時	自同九時一分至同十二時	自同零時一分至同一時	自同五時三十分至同六時
五月	自同六時卅分至同七時卅分	自同七時卅一分至同九時	自同八時卅一分至同十二時	自同零時一分至同一時	自同六時一分至同六時卅分
六月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同十一時	自同九時一分至同十二時	自同零時一分至同一時	自同六時卅分至同七時
七月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同十一時	自同九時一分至同十二時	自同零時一分至同一時	自同六時卅分至同七時
八月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同十一時	自同九時一分至同十二時	自同零時一分至同一時	自同六時卅分至同七時
九月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同十一時	自同九時一分至同十二時	自同零時一分至同一時	自同六時卅分至同七時
十月	自同六時卅分至同八時	自同八時一分至同十一時	自同九時一分至同十二時	自同零時一分至同一時	自同六時卅分至同七時
十一月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同十一時	自同九時一分至同十二時	自同零時一分至同一時	自同六時卅分至同七時
十二月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同十一時	自同九時一分至同十二時	自同零時一分至同一時	自同六時卅分至同七時

二、農手就業及休憩時間表

月別	始業時間	晝食及休憩時間	終業時間
一月	午前八時	自正午十二時至午後一時	午後五時
二月	同	同	同
三月	同	同	同

四	月	同	七	時	同	上	同	六	時
五	月	同	上		自	午後	十一時	三十分	同
六	月	同	六	時	自	午後	十二時	二十分	同
七	月	同	六	時	自	午後	十二時	二十分	同
八	月	同	七	時	自	午後	一時	三十分	同
九	月	同	七	時	自	午後	一時	三十分	同
十	月	同	上		自	午後	十一時	二十分	同
十一	月	同	七時三十分		自	午後	十一時	二十分	同
十二	月	同	八	時	同	上			同

種 牡 牛 表

一、縣有種牡牛

名	號	種	類	生	年	月	日	産	地	飼	養	者
第二十八サージョハナ		ホルスタイン	種	大正十二年	八月	一日		北海道		福井縣立種畜場		
ビーターデエマーセーヅ		フリージアン種	種	同	同	同		北海道		遠敷郡畜産組合		
サーホームステット		同	種	同	九年	十一月		北海道		遠敷郡畜産組合		
デコール九五號		同	種	同	十五年	六月		當場		足羽郡畜産組合		
デアマンチエー二世號		同	種	同	十五年	七月		當場		今立郡畜産組合		
ヒルダ三世號		同	種	同	十五年	七月		當場		今立郡畜産組合		

名	號	種	類	生	年	月	日	産	地	飼	養	者
第三十サージョハナ		同	種	同	十二年	九月	廿五日	北海道		遠敷郡		
ビーターデエマーセーヅ		同	種	同	八年	一月	廿八日	同上		宮川村産業組合		
第七十六ヘンドリック		同	種	同	八年	一月	廿八日	同上		大飯郡畜産組合		
スシー二世號		同	種	同	十五年	五月		當場		大野郡畜産組合		
第二十二大上		改良和種	種	同	十五年	三月		島根縣		三方郡畜産組合		
蓬萊		同	種	同	十四年			鳥取縣		遠敷郡畜産組合		

二、國有貸下種牡牛

名	號	種	類	生	年	月	日	産	地	飼	養	者
小 鶉		ホルスタイン	種	大正八年	十一月	廿一日		農林省畜産試験場		吉田郡畜産組合		

終

